

中学校 音楽科 部会

部会長 校長 金高 智典
実践者 教諭 山尾 千奈津

1 研究主題

「思考力・判断力・表現力を育む音楽科学習指導の工夫」
～主体的な学びにつながる交流活動を通して～

2 主題設定の理由

- 音楽科においては、音楽のよさや楽しさを感じるとともに、思いや意図を持って表現したり味わって聴いたりする力を育成すること、音楽と生活との関わりに関心を持って、生涯にわたり音楽文化に親しむ態度を育むこと等に重点を置いて、その充実を図ってきた。
- 一方で、感性を働かせ、他者と協働しながら音楽表現を生み出したり、音楽を聴いてそのよさや価値等を考えたりしていくこと、我が国や郷土の伝統音楽に親しみ、よさを一層味わえるようにしていくこと、生活や社会における音や音楽の働き、音楽文化についての関心や理解を深めていくことについては、更なる充実が求められるところである。
- 今回の学習指導要領の改訂においては、これまでの成果を踏まえ、これらの課題に適切に対応できるよう改善を図っていくことが必要であるため、田川郡音楽部会として本主題を設定した。

3 主題の意味

- 音楽科の思考力・判断力・表現力とは、音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする力である。(2, 3年生は、曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。)
- 音楽科の主体的な学びとは、主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいく態度を養うことである。(2, 3年生は、主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養うことである。)
- 音楽科の交流活動とは、音楽科学習指導要領(H20)に示されている[共通事項]を音楽的根拠として、自分の考えを持ち、それを仲間と交流しあい、まとめていく活動を行い、同じ目標の達成に向け取り組んでいくことである。

4 研究の目標

本研究の目的は、音楽表現をより豊かにするために、どのようにしたら思考力・判

断力・表現力が高まるのかを明らかにすることである。そのために交流活動を通して主体的な学びにつながる方策を見いだすことをねらっていく。

5 研究仮説

鑑賞領域において、音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じさせるための適切な支援を行ったり、グループや全体での交流を通して、自分の考えを伝えたり、自分の考えと友だちの考えを比べさせ違った考えに触れたりする活動を行えば、生徒は自分の考えをさらに深化させ思考、判断し、思いを音楽的根拠に基づいて思考・判断・表現できる力が高まるだろう。また、自分たちで考え、工夫し、批評や表現をつくりあげていく経験を重ねることが、自分たちの力で更にもっと豊かな音楽活動や表現をしていきたいという主体的な学びにつながるであろう。

6 研究の計画（本年度の授業研究の計画）

(1) 題材名 「詩や曲想の変化を知覚し、情景の移り変わりを感じ取ろう」

題材 ヴァイオリン協奏曲＜和声と創意の試み＞第1集「四季」から
「春－第1楽章－」（A. ヴィヴァルディ作曲）

(2) 題材の目標及び指導計画

① 音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわり、音楽の特徴とその背景となる文化・歴史との関連に関心を持ち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。

【音楽への関心・意欲・態度】

② 音楽を形づくっている要素や構造と曲想のとのかかわりを感じ取り、音楽のよさや美しさを味わうことができる。

【鑑賞の能力】

学習指導計画（総時数 3 時間）

配次	配時	具体的な目標	学習活動・内容	指導上の留意点
一次	1	<p>○曲の雰囲気を感じ、ワークシートに感受した情景や諸要素を記入できる。 【鑑賞の能力】</p> <p>○音楽の特徴とその背景となる文化・歴史との関連に関心を持ち、主体的に取り組もうとしている。 【音楽への関心・意欲・態度】</p>	<p>○「春―第1楽章―」を聴き雰囲気を感じ取る。</p> <div data-bbox="639 528 1046 730" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・明るい（長調）、暗い（短調） ・音の高さや低さ ・楽器の音色、種類 </div> <p>○作曲家や楽器、曲の構成について知る。</p> <div data-bbox="639 904 1046 1167" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・A. ヴィヴァルディ ・協奏曲の父 ・ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス、チェンバロ、テオルボ ・リトルネッロ形式 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・感じたこと文章で表現させる。 ・キーワードを与え、考えやすくさせる。 ・写真を用いて視覚的にも興味関心を持たせる。

二次	<p>○音楽を形づくっている諸要素とソネットとのかかわりを感じ、ワークシートに感受した諸要素を記入できる。【鑑賞の能力】</p> <p>○要素や構造と曲想とのかかわりに関心を持ち、主体的に取り組もうとしている。【音楽への関心・意欲・態度】</p>	<p>○実際のソネットを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・A.春がやって来た。 ・B.小鳥は楽しい歌で春を歓迎する。 ・C.泉はそよ風に誘われ、ささやき流れていく。 ・D.黒雲と稲妻が空を走り、雷鳴は春が来たことを告げる。 ・E.嵐がやむと、小鳥はまた歌い始める。 </div> <p>○班ごとに分かれ音楽の要素とソネットの関わりを探り言葉で表現する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・高い音→小鳥の鳴き声 ・明るい(長調)→楽しい歌 ・リズムと音の動き→風 ・低い音→雷、雨 ・fの時→全員で歌ってい </div>	<p>・教科書を見ながら鑑賞させる。</p> <p>・強弱や音の高さなどの要素をソネットと結びつけさせる。</p> <p>・ワークシートに各班の意見をまとめさせる。</p>
三次	<p>○楽器の音色や強弱などの特徴を捉え、音楽の良さや美しさを味わって鑑賞できる。【鑑賞の能力】</p> <p>○要素や構造と曲想とのかかわりに関心を持ち、主体的に取り組もうとしている。【音楽への関心・意欲・態度】</p>	<p>○ソネットを参考に「夏」「秋」「冬」を鑑賞し、それぞれの特徴を捉える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・「夏」力強い→猛暑 ・「秋」弾む感じ→狩りに出る ・「冬」柔らかい→こたつで </div>	<p>・DVDを視聴し、演奏中の様子や音色・強弱など、表現における工夫を捉えさせる。</p> <p>・特徴をワークシートに記入させる。</p>

7 指導の実際

(1) 本時の指導観

前時までに生徒は、「春」を用いて、曲の雰囲気を感じ取りソネットを考える活動を行っている。その際想像力をより大きく働かせることができるように、聴きとる部分を限定して考えさせ、その考えた交流し、全体でイメージを膨らませた。また作曲者や使用される楽器、曲の構成やその背景となる文化・歴史について画像などで視覚的にも併せて学び、曲に対する理解を深めた。

本時では、まずソネットを提示し確認させる。このことにより自分のイメージと作者が実際に着想したものとの比較を生徒は行い、自然と曲に対する新たな発見や着眼点などの視点を持ち主体的な鑑賞にのぞむであろう。ソネットについては原語と日本語の両方を確認し、実際のソネットの原型にふれ詩の構造やイタリア語の韻をふんだ

語感などによりイメージの喚起や曲に対する興味関心が一層高まるよう配慮する。そしてそのソネットを音楽の諸要素と照らし合わせながらそれがどのように働いているのか、要素同士がどのように関連しあっているのかを探り、作曲者の工夫した点を個人で考えさせる。この時、強弱や音の高さなどの要素を提示し実際のソネットと結びつける活動を通して、作曲者が情景を音楽で表現するために行った工夫を理解させる。そしてこの個人の意見を取り入れながら班で交流し意見をまとめさせ、この活動により音楽の多様な感じ取り方があることに気づかせ、意見を出し合わせることで、思考力・判断力を高め、鑑賞の能力や表現力を育てる。

(2) 本時の主眼

情景を表現するために行った工夫を探る活動を通して、ソネットと音楽を形づくっている要素や構造と曲想の変化を言葉や文章に表すことができる。

(3) 準備

- ①ファイル（自己評価表）②ワークシート③楽譜④CD⑤CD プレイヤー⑥ホワイトボード⑦ペン

(4) 展開

	学習活動・内容	教師の支援・手立て・評価	形態	配時
導入	1. 本時のめあてを確認する。 (1) 前時の想起をする。	○作曲家や使用される楽器について復習させる。	全	10
	<ul style="list-style-type: none"> ・A. ヴィヴァルディ ・リトルネッロ形式 ・ヴァイオリン・ヴィオラ・チェロ・コントラバス 			
	(2) 実際のソネットを知る。	○教科書を見てイタリア語と日本語訳されたソネットを確認させる。		
	<ul style="list-style-type: none"> ・A. 春がやって来た。 ・B. 小鳥は楽しい歌で春を歓迎する。 ・C. 泉はそよ風に誘われ、ささやき流れていく。 ・D. 黒雲と稲妻が空を走り、雷鳴は春が来たことを告げる。 ・E. 嵐がやむと、小鳥はまた歌い始める。 			
(3) めあてを確認する。				
	【めあて】 情景を表現するために行った工夫を探ろう！			

展開	2. 実際のソネットと照らし合わせながら聴く。	○楽器の音や高さなどに注目させる。	個	5
	○要素や構造と曲想とのかかわりに関心をもち、主体的に取り組もうとしている。【音楽への関心・意欲・態度】			
	3. 交流活動をする。 (1) A～Eの5つの班に分かれて諸要素を探る。	○個人で考えた意見を取り入れながら、諸要素とソネットの関わりを見つけさせる。 ○意見をまとめるために、班ごとに演奏を聴かせる。 ○楽譜からも諸要素を読み取らせる。	班	20
○音楽を形づくっている諸要素とソネットとのかかわりを感じ、ワークシートに感受した諸要素を記入している。 【鑑賞の能力】				
	(2) 各班の意見を全体で交流し、ワークシートに意見を記入させる。	○どの要素とソネットが関連しているのか、具体的に発表させる。	全	10
まとめ	4. 学習のまとめをし、自己評価を記入する。	○次時の学習につなげるために、学習の振り返りを行い、本時の授業で分かったことや感じたことを発表させる。 ○自己評価表に感想を記入させる。	個	5
	【まとめ】 強弱や音の高さを変化させて情景を表現している			
		○次時の連絡をする。	全	

8 研究のまとめ

本題材において、思考力・判断力・表現力を育むために次のような交流活動の手立てをとった。

- ソネットの内容と音楽の諸要素を結びつけて聴き取り、それを交流することで情景を音楽で表現するために作曲者が行った工夫を考えさせる。
- 個人で考えた意見を学習プリントに書かせた後、班で交流しまとめさせる。
- 班活動の際に音楽を何度も確認しその内容を十分感受しまとめることができるよう班ごとにCDプレイヤーを用いる。
- 具体的にどのような要素が用いられているのか、音楽ワードカードを参考にさせる。

- グループや全体での交流を行い、友だちの考えと自分の考えを比べさせたり、新たな考えを知ることで、自分の考えをより深化させ、音楽を自分なりに評価しながら良さや美しさを味わって聴く活動につなげていく。
- 発表を行い、他のグループの意見を参考にすることで、自己評価も行う。

9 成果と今後の課題

<成果>

- 話し合い活動を行う前に、個々の考えをまとめる時間をとったことでパート内での話し合い活動が円滑に行われた。
- まとめの書き方ヒントで定型を提示することで、知覚したイメージの文章化がしやすくなり意見をまとめやすくなった。
- 音楽に関する用語や記号などについて理解できていない生徒への手立てとして「音楽ワードカード」を提示したことで、個々のイメージを出しやすくし、要素とイメージの関連性を広げて考えることができる生徒が増え、効果的であったと思われる。
- ソネットごとのスコアを学習プリントで活用することによって、各パートの旋律の動きや役割、全体との関わりといった構造上の特徴を視覚的にもとらえやすくなった。
- 自分たちで意見を出しあい、話し合い、意見をまとめる活動をとおして根拠を持って音楽を批評するなどして音楽のよさや美しさにふれ、より一層音楽をかたちづけている要素や構造と曲想との関りを知覚・感受する能力が高まり、主体的に活動する場面が多くみられるようになった。

<課題>

- 話し合い活動に時間がかかり、発表や個人で意見をまとめる時間が少ないことがあった。話し合い活動が主にならないよう、学習プリントや取り組みの方法をさらに工夫していく必要がある。
- 音楽活動を通して、知覚・感受したことや自分の考えなどを言葉で表す言語活動と往還させ結びつけるといった音楽科の特質に応じた言語活動を視野にいれ授業展開をしたが、本時では個人の考えをまとめたり、交流して意見をまとめる際、その考えをじっくり深めまとめることがもう少し必要だと感じた。より深い思考を育むために、時間配分を工夫したり、導入の「めあて」の提示で主体的な学び・活動につながるような工夫が必要だと考える。生徒に何をめあてにさせるか問うなどして疑問をもたせるなど、明確化できるような「めあて」の設定、問いづくりが重要であると考えられる。

◎参考文献

- ・ 文部科学省 「中学校学習指導要領解説 音楽編」平成20年 教育芸術社
- ・ 文部科学省 「中学校学習指導要領解説 音楽編」平成29年6月 文部科学省